

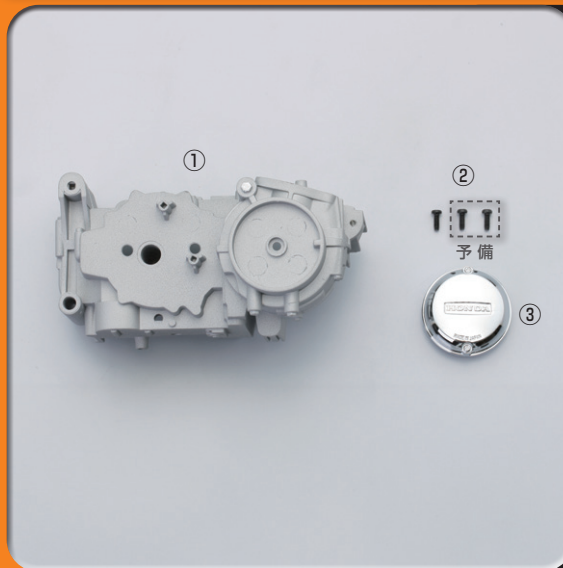
今号の作業

クランクケースを組み立てる①



今号から、いよいよエンジンブロックの下部となる「クランクケース」の組み立て作業を開始する。初回となる今号では、ポイントカバー裏側にある突起にタップを立て、クランクケースAに取り付ける作業を行う。

今号のパーツ



- ①クランクケースA
- ②ビス(Eタイプ)×3
(※2本は予備)
- ③ポイントカバー

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

使用する道具

・+(プラス)ドライバー(1番)

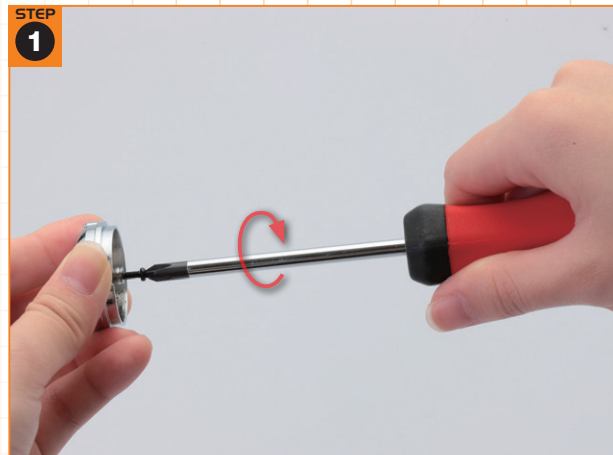
用意するもの

・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
・油性ペン

あると便利な道具

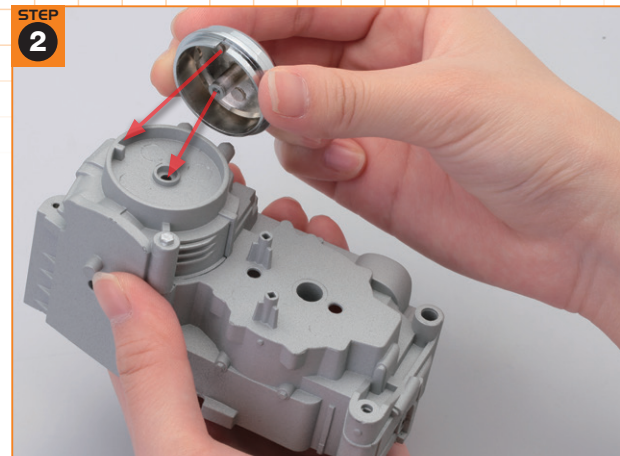
・ゴム系接着剤

STEP
1

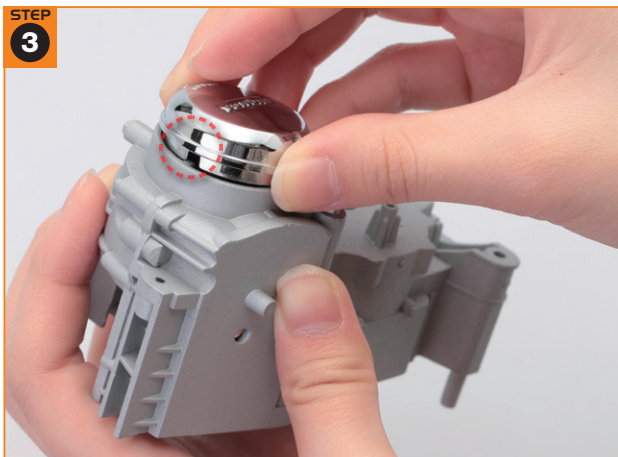


③ポイントカバーの裏側にある円柱状の突起の穴にタップを立てる。②ビス(Eタイプ)を穴へ真っすぐにセットし、1番の+(プラス)ドライバーで3分の2程度まで“ゆっくりと”ねじ込んでから取り外す。その後、穴の開口部を下にして軽く叩き、中に残った“金属の削りカス”を取り除いておく。

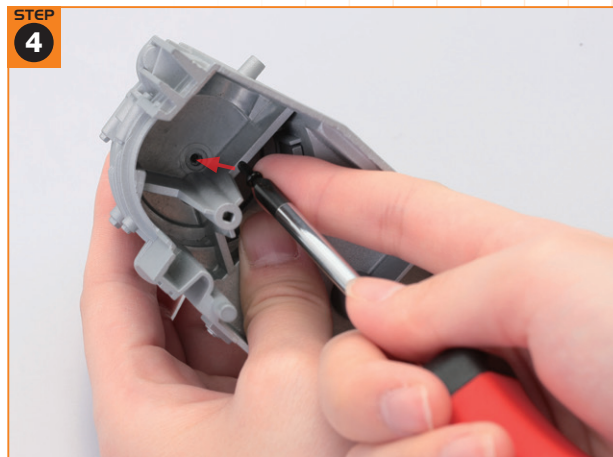
STEP
2



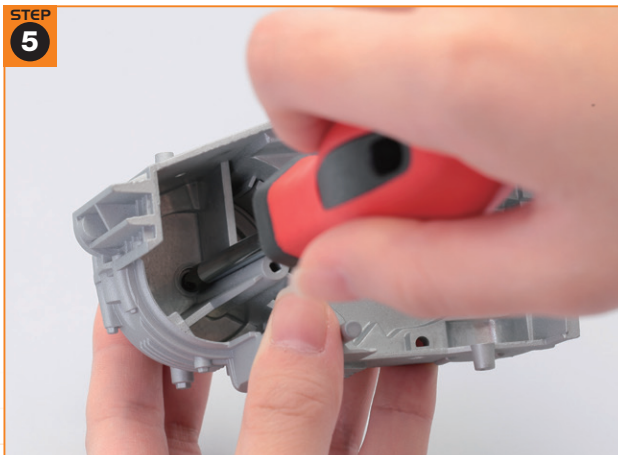
①クランクケースAと、①で処理したポイントカバーを用意し、写真に示した位置にポイントカバーをセットする。



ポイントカバー下側に設けられたくぼみに、クランクケースAの取り付け部分の突起をはめ込む。



ポイントカバーが落ちないように保持したまま、クランクケースAの内側を手前に向け、写真に示したビス穴にEタイプのビスをセットする。ビスをドライバー先端にはめ込んだ状態で行うと簡単だが、ビスが落ちてしまう場合はドライバーを事前に着磁しておくとうちにくくなる。



ドライバーを右に回し、Eタイプのビスをねじ込んでポイントカバーを固定する。無理にねじ込むのではなく、ポイントカバーがガタガタと動かなくなればOKだ。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。実車のクランクケースは一体成型されているが、本モデルでは内部に電子基板を組み込むため、あえて左右2分割としている。なお、パーツ表面がザラザラしているのは、実車初期型に採用された『砂型クランクケース』を視覚的に再現する処理を施しているためだ。組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。



今回の作業で残った2本のビスは、号数と「ビスのタイプ(今号ではEタイプ)」を記入したビニール袋に入れて、紛失しないよう大切に保管しよう。